

【概要】

2018年度 民間住宅ローン利用者の実態調査 【民間住宅ローン利用予定者編】(第2回)

I 調査の概要

今後5年以内に住宅を取得する計画があり、かつ、民間住宅ローンを利用する予定がある方を対象に、希望する住宅ローンの金利タイプ、住宅取得に向けた意識や行動などについて、インターネットによるアンケート調査を実施し、その結果を取りまとめたものです。

(参考) 調査時期:2019年4月15日～4月23日、回答数:1,500件

II 調査結果の主なポイント

※< >は、本調査結果の詳細資料中の該当ページ

1 利用予定の金利タイプは、「全期間固定型」の希望割合が減少、「変動型」、「固定期間選択型」の希望割合が増加 <p. 2>

- ・「変動型」29.5%(前回調査 27.5%)
- ・「固定期間選択型」35.1%(同 32.9%)
- ・「全期間固定型」35.4%(同 39.5%)

2 今後1年間の住宅ローンの金利見通しは、「現状よりも上昇する」が減少、「ほとんど変わらない」、「現状よりも低下する」、「見当がつかない」が増加 <p. 3>

- ・全体では、「現状よりも上昇する」が33.6%(前回調査 42.0%)に減少、「ほとんど変わらない」が37.0%(同 33.0%)に、また「現状よりも低下する」が10.5%(同 8.3%)に、さらに「見当がつかない」が18.9%(同 16.7%)にそれぞれ増加。この傾向は各金利タイプで共通。

3 住宅の買い時意識は、「分からない」が4割 <p. 5、p. 6>

- ・今(今後1年程度)の住宅の買い時意識は、「分からない」が41.3%(前回調査 38.3%)、「買い時だと思う」が34.2%(同 41.4%)、「買い時だと思わない」が24.5%(同 20.3%)
- ・買い時だと思う理由は、「住宅ローン金利が低水準だから」が64.5%(同 69.1%)と最も多く、次いで「消費税率引上げ前だから」が40.5%(同 59.6%)、「税制のメリットが大きいから」35.3%(同 30.8%)が続いたが、前回と比べて、「消費税率引上げ前だから」との理由は減少した。